

○ファイルのフォーマットの高い寛容性

世の中には様々な形式の音声ファイルがあるが、その多くに **audacity** 対応できる。とりあえずドロップして開けば、そのまま作業続行でき、読み込めない非圧縮ファイルの場合は **RAW** モードという専用の読み込みモードが用意されている。

また、複数のファイルを読み込む場合、それらのフォーマットが揃っていない場合でも、サンプリング周波数がそれぞれで異なっている場合でも、同時に開き作業が可能だ。

しかし、書き出しに関して、使用者は自分に必要なファイル形式の正確な名称と、最低限の知識が必要となる。読み込んだファイルの形式は保存も表示もされず、上書きしても同じフォーマットにはならないからだ。

圧縮ファイルに関して、**audacity** はその全てを外部プラグインに依存し、適合するプラグインを使用者は、別途に入手しなければならない。現在、**MP3** 形式に対応する **Lame** と **AC3** などに対応する **FFmpeg** が配布されている。

○自由なサンプリング周波数設定

読み込めるサンプリング周波数だけでなく、作成書き出しできるサンプリング周波数も任意に設定可能で、必要なら下は **100Hz** 以下から、上は **10MHz** を超える設定が可能だ。これは映像信号を直接波形編集できるほどの性能を持っていることを意味している。(対応するデバイスが無いが・・・)

自由なサンプリング周波数であることは、作業の幅を大幅に広げ、変えてはいけないという従来の作法から、都合に合わせて自在に操作できる一つのパラメータとして扱うことができることを意味している。

○ビット深度の自由設定

デフォルト(初期状態)では最高品位に、必要なら自由に操作変更できる柔軟なシステムになっている。もちろん音も変わるし、最大処理トラック数も変わる。また様々な検証作業は、単に「高精度」なだけでは不十分で、必要なビット深度を保てなければならないが、**audacity** はそのような要求にも応えられる。また、それに伴いディザと呼ばれる付加処理も自由設定できる。

○強力な内蔵プラグイン

audacity ver.1.3.11 には、標準装備で位相差の無い強力なイコライゼーション、ソースを選ばないタイムストレッチ/コンプレッション/ピッチ操作、などの比類の無いエフェクト群が用意されている。

これをどのように使いこなすかは使用者次第だ。この部分の使いこなすだけで本が一冊書けそうなほど、奥が深い。

○最高度の精度の編集機能

audacity を使用する理由として、この部分だけで十分と言えるほどの、精密(これ以上は存在しない)な編集と時間軸操作が可能。その最小単位は **1** サンプルなので、理論的限界と言えるが、**audacity** ではそれだけではなく、オーバーサンプリング処理を手動で行うことができるため、**1** サンプル以下の編集や時間軸操作も熟練すれば可能。

○強力な論理精度と充実の基本機能

ほとんどの機能(プラグインを含む)は、聴感よりもまっとうな論理精度を重視してお

り（ゆえに気の利いたおしゃれな機能が少ない）、多くの場合感覚的な操作と並行して、数値入力による処理ができる。数値入力は一見面倒で堅苦しいイメージがあるが、「メモ」を取ったり、手探りで作業をしなければならない場合や、遠くにいる友人と情報交換する場合にも大変重宝する。

○ 2GB を超える長尺ファイルの取り扱い

フラッシュメモリーを使用した録音再生専用機でも、長尺録音は 2GB 単位で分割保存され、後で接続・復元しなければならないが、audacity は 10GB 程度のワンピース編集やファイル作成ができる数少ないソフトの一つだ。

○無限の UNDO と reDO

audacity は独自の断片化エンジンを持ち、無制限の UNDO（やりなおし）と reDO が可能だ。しかしこのことが、莫大なハードディスク容量を使用する原因であり、また複雑な工程でのトラブルの原因となる場合も少なくない。便利な機能ではあるがあまり頼りすぎないように、思ったように処理ができたなら、ご祝儀のつもりで、こまめにファイル出力することを推奨する。複雑な工程の過程で、万一続行不能に陥った場合、そこまでの努力が水泡に帰すことも・・・。

○全ての履歴を保存する、プロジェクトファイル

前出の UNDO、reDO を含むすべての履歴を包含した、プロジェクトファイルを使用することができる。このファイルを利用することで、作業の過程のすべてを保存することができ、また一度読み込んだファイルは、このファイルを利用することで、次回から瞬時にロードできるようになる。

ところが、このファイルは意外とデリケートで、作成したバージョンと異なるバージョンの audacity では開かないことが多いし、ファイルそのものに操作を施すと同様に開かなくなることがよくある。本格的に使用するには、audacity 専用の外付けハードディスクドライブを用意し、そこへ関係するファイルを置いて作業することを強く推奨する。＜外付けハードディスクのススメ＞を参照。

*かつては動作が不安定だったプロジェクトファイルだが、ver,1.3.11 になってから格段に安定性が向上した。しかし、過信はしないように。

☆そのほかにも audacity には数多くの利点がある。

audacity の苦手なこと、と読み合わせ、利点を生かした利用を心がけたい。